

菖蒲は日本各地に自生している植物ですが、その香気と剣のような葉の形から、邪気を払い疫病を除くとの言い伝えを持ち、古くから様々に利用されてきました。その多くは、5月5日の端午の節句にちなむもので、菖蒲刀、菖蒲の枕、菖蒲の鉢巻きなどがあります。

この中で、菖蒲刀という言葉は、津山城築城直前の森家の歴史に大きく関わった言葉として伝えられています。菖蒲刀は、端午の節句の時に子どもが太刀の代わりに差したのですが、江戸時代には木製の太刀も用いられるようになり、金銀を用いた華美な装飾が施されたものもありました。

さて、今から400年ほど前、森忠政が美作の国に入った当時の有力な家臣に、井戸宇右衛門と名古屋九右衛門がいました。この二人は、いずれも森家と親類関係のある有力者でしたが、井戸は武功で知られた森家譜代の家臣で、一方、名古屋は新参の家臣でした。彼らは、美作入国以前から不仲で、何かと対立していたという伝承が『森家先代実録』に記載されており、今に伝えられています。

ある夜のこと、美しく冴え渡る月を見て、九右衛門が「さて、今宵の月はよく照る月哉」と言うと、宇右衛門はしてやったりとばかりに「日こそ照るといへ、月の照るといふ事やある」と、言葉遣いの誤りをとがめ立てしました。

すると、九右衛門はそれには答えず「水の面に、照る月浪をかぞふれば、今宵ぞ秋の最中なりける」という古歌を吟じたのでした。

津山城百聞録

～名古屋九右衛門の菖蒲刀～

しを計り九右衛門の刀に目を付けます。その頃、何かと華麗なものを好んでいた九右衛門は、刀や脇差しの拵えにも趣向を凝らしていました。何かの集まりの時、宇右衛門は素知らぬ顔で九右衛門の刀を取り上げ「この菖蒲刀は…」とあざけるようにして投げ捨てたのです。そこには、見掛けばかりで役に立たない飾り物の刀という意図が現れていました。それに対して九右衛門がどのように応じたのかは記録にないのですが、いよいよ険悪になっていったことは間違いありません。

こうした対立が背景にある中で、忠政が美作に入ったばかりの慶長8年（1603）5月3日、名古屋九右衛門と井戸宇右衛門は、院庄でのけんかにより、双方死亡という結末になったのでした。この両者の墓に植えられた松が、後世「にらみあいの松」として語り伝えられていきました。



▲にらみあいの松（院庄東公園）

つやま 広報

5月号
平成19年
2007
631号

TSUYAMA CITY
Public Relations Magazine

編集・発行（毎月10日発行）

津山市企画部市長公室（市役所3階）
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>



中山神社に南北朝時代に作られた和太鼓が現役で残っています。最近、皮を張り替えると、胴の内側に人名や時期など修復歴が記されていたそうです。美作の国に刻まれた和太鼓の歴史を痛感。これからも轟け！津山の和太鼓！（X）



ドキドキ♡初めての取材。声をかけてくれる人もいてとってもうれしくなりました（中学の同級生のお母さんにまで…20年も前なのに…）。これから多くの人と出会うことが楽しみです。よろしくお願います。（和）



つぶやき

編集室

初めまして、今回から編集に加わった「2」です。11万人の市民の皆さんに必要な市役所の情報を分かりやすく載せるつもりです。クイズ、応募はかきの余白にでも、一言感想を書いていただけると嬉しいです。（2）



3月中のひとの動き

人口	110,454人	(前月比△483)
男	52,696人	(同△276)
女	57,758人	(同△207)
世帯	43,373世帯	(同△72)
転入	607人	転出 1,089人
出生	84人	死亡 85人

(4月1日現在)



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください

